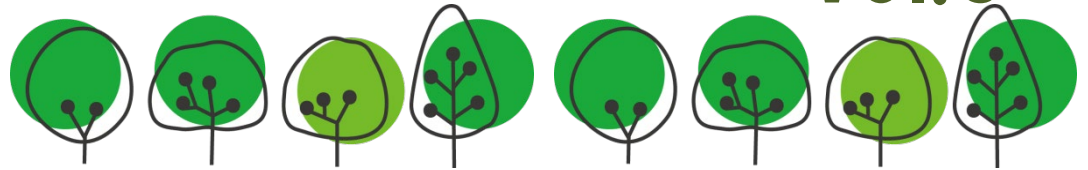




木地師のふるさと

vol.9



R4. 3 発行

「木地師作品の展示会」の開催

木地師の歴史や文化について認知度向上を図るため、昨年度に引き続き、木地師作品の展示会を開催しました。

東近江市で活躍している木地師の作品や東近江市の木地師文化の紹介、全国の木地製品を展示するとともに、滋賀県で初めて林業遺産に認定された内容やアーカイブ・プロジェクトの活動状況など、これまでの取組についても紹介しています。

令和4年1月から3月中旬にかけて、東近江市内3箇所（湖東図書館、永源寺図書館、市役所）で開催しました。

展示の様子



東近江市で活動する木地師と製作した作品の紹介
(左：北野 清治作、右：北野 宏和作)



山中漆器拭き漆製作工程の展示



全国の木地製品展示



東近江市で活動する木地師と製作した作品の紹介（小椋 昭二作）



令和4年度には東京で「木地師のシンポジウム」の開催を計画しています。
詳しい情報は、今後のニュースレターなどで発信していきます。お楽しみに!!

長野県南木曾町漆畑

調査者：筒井正氏（東近江市参与／愛知学泉大学准教授）

わが国でも数少ない木地師の集落

長野県南西部、木曾郡南木曾町の南東部に位置する漆畑集落は、木地師が開村し、暮らし続けている集落です。

漆畑で暮らしていた木地師の大蔵政弥が1927年にまとめた『漆畑記録簿』に木地師の伝承、漆畑開村の経緯などが記されています。同書によれば、大蔵家は惟喬親王の側近大蔵惟仲卿の子孫に当たり、政弥の従兄弟大蔵弥太郎の尽力により御料林の払い下げを受け、明治13年に伊那で暮らしていた13軒の木地師が集住し漆畑を開村したとされています。

漆畑の木地製品の特徴

漆畑の木地師が製作する製品や技術は、昭和55年に「南木曾ろくろ細工」として国の伝統的工芸品の指定を受けました。南木曾ろくろ細工の良さは、天然の木目をいかして素朴で温かい手作りの良さを感じさせるところにあります。

馬籠宿・妻籠宿などの観光地にも近く、毎年秋に行われる「南木曾ろくろ祭」では、ろくろ挽きの実演奉納や餅投げなどが行われ、大勢の観光客が訪れます。

現在、漆畑で木地製品の製造・販売に従事する家は7軒で、互いに屋号で呼び合います。カネキン（小椋製盆所）の小椋浩喜さんは、音響への興味関心から、ろくろ技術を使って天然木スピーカー「音蔵」（おぐら）を製作されています。「音蔵」から発せられる音は、「回折」と呼ばれる効果によって立体的な音空間をつくり、自然で滑らかな音色を出し、癒やし効果が高まるといいます。口コミなどで、注文が急増し、納品まで半年待ちの状況にあるとのこと。

その後、各地から木地師の移住が相次ぎ30軒ほどの集落に発展しました。彼等の本籍は東近江市蛭谷・君ヶ畑に置かれていました。



▲漆畑集落の入り口に掲げられた看板



▲令和元年南木曾ろくろ祭でのろくろ挽きの実演の様子



◀ろくろ挽きスピーカー「音蔵」

会津の漆器産業と木地師の関わり

江戸中期編纂の「和漢三才図会」に、江州日野、紀州根来、紀州黒江と並んで奥州会津の漆椀が掲載されており、古くから会津は日本を代表する漆椀の生産地として知られています。

戦国大名蒲生氏郷が1590年会津入部に際して、近江の小椋谷（現在の東近江市）から木地師や塗師を連れて行き、木地業を保護しました。

蒲生氏郷肖像画
（福島県立博物館蔵）



蒲生氏郷
近江日野（現在の滋賀
県蒲生郡日野町）出身

また、江戸幕府三代将軍家光の異母弟にあたる高遠藩主保科正之は、山形藩主を経て1643年会津藩主として入部したとき、高遠領内（信州伊那地方）の木地師を会津へ移住させ、会津の漆器産業の基礎が築かれました。会津の木地師は、原木を求めて、南会津一帯に移住し、各地に木地師集落が形成されていきました。



▲奥会津博物館
木地製品や木地道具等が
収蔵・展示されている

木地師の根元地としての近江小椋谷

会津地方の氏子かりは、蛭谷の氏子駈「12号簿冊（1740年）」に陸奥国岩瀬郡天栄村湯本の記載を初見とし、これ以降、蛭谷や君ヶ畑から氏子かりが行われていました。

幕末、会津南山保上小屋の木地師小椋長四郎が書き残した「伊勢参宮道中記」には、会津の木地師と近江小椋谷との関わりを示す興味深い記述が見られます。「道中記」によれば、小椋長四郎は、「伊勢参り」を企画し、仲間11人で、1850年正月9日、会津保上を出立し、伊勢、熊野、高野山などに詣でています。その後京都に入って、白河家、吉田神社を訪問して御神酒を奉納し、八日市から筒井峠に至り、筒井正八幡宮を参拝して蛭谷に向かい、三郎右衛門宅にて11人が宿泊し、神主家（大岩家）に進物を贈呈し、宝物を拝見したこと、また、その翌日に君ヶ畑に向かい、大皇大明神、金龍寺を参拝して、帰路に就き、3月17日に帰着しています。



▲惟喬親王夫婦像
（奥会津博物館蔵）

木地師は、原木を求めて山から山へと移り住みます。移住を繰り返す人びとにとって、心の拠り所となるのは、祖先の故地であり、木地師の根元地である蛭谷や君ヶ畑であり、そこに祭られている祖神としての惟喬親王への崇敬の念であったと推察します。全国に散在する木地師にとって、根元地（近江小椋谷）はまさに「水上」であり、水上に詣でることは、大きな喜びであったことでしょう。

アーカイブ・プロジェクトの活動も約3年半が経過しました。

平成30年10月からはじまったアーカイブ・プロジェクトの活動も、約3年半が経過しました。約1,200点の資料の整理をひとつずつ写真撮影、製図作業、作品名や法量等を記載する台帳作成作業を行ってきました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、思うように活動を進めることができなかつた時期もありますが、ようやく数多くある資料の整理の目途が見えてきました。

アーカイブ・プロジェクトの活動 ※毎回ボランティアスタッフの協力を得て行っています。

写真撮影

正面や横面、背面、裏面、斜視等様々な角度から資料を撮影します。



(写真例)

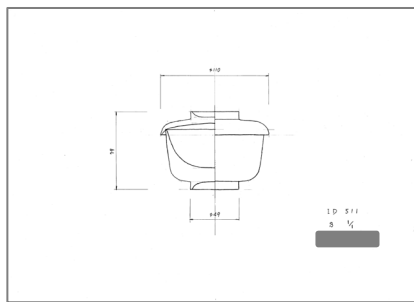


製図作業

ノギス等の道具で資料の正確な形を図面に落とします。



(製図例)

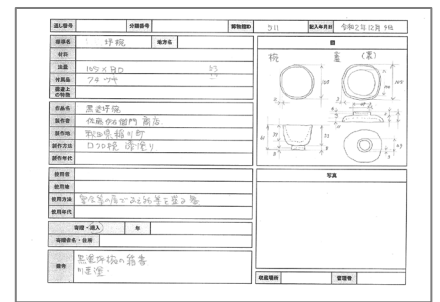


台帳作成作業

資料を見ながら作品名や法量、用いられている材料等を記入します。



(台帳例)



令和4年度アーカイブ・プロジェクトのボランティアスタッフを募集しています。来年度は資料の整理を完了させ、いよいよ国の民俗文化財登録を目指して取組を進めていきます。

参加を希望される方は、「東近江市 アーカイブ・プロジェクト」で検索していただき、市HP (<http://www.city.higashiomi.shiga.jp/0000009420.html>) をご覧いただくか、下記までお問い合わせください。

木地師のふるさと 東近江市

発行：東近江市企画部企画課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

TEL(代表) 0748-24-1234 (直通) 0748-24-5610

FAX 0748-24-1457

Email kikaku@city.higashiomi.lg.jp

Facebook <https://www.facebook.com/higashioumi.kijishi>

(Facebookでは随時、お知らせ等を行っています!!)

市HP



Facebook

